

## 第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

家族へ残したもの

福井県 福井市灯明寺中学校 三学年

戸田 くるみ

私には四年前まで大好きなおばあちゃんがありました。会えば毎回笑顔で出迎えてくれて、優しい言葉をかけてくれる。行儀や作法には厳しく、私が見ていないときにはしつかり叱ってくれる。私にとってかけがえのない大切な祖母でした。

ある日、私と母が外で食事をしていたとき、一本の電話がありました。

「……が倒れた……大変で……」

それは突然の出来事でした。電話に出たのは母なので、内容は詳しくは聞きとれませんが、尋ねてみると、どうやら祖母が病気で急に倒れたとのことでした。そのときの母の顔は今でも忘れられません。

祖母が倒れたときには偶然そばに親せきの人がいてくれたそうで、病院へ早くたどり着けたのが不幸中の幸いでした。祖母はその病院で診てもらった結果、「ガン」だということが分かりました。それを知ったとき、私はとても悲しくて、苦しくて、何とも言えない気持ちになりました。けれど、本当に辛かったのは祖母と、その娘である母だったと思います。

それから祖母は病院生活をすることになりました。ほぼ毎日、母と一緒にお見舞いに行つて、その日の楽しかったことや嬉しかったこと、いろんな話をして、ときには病院に泊したこともありました。私たちは祖母が退屈しないようにいろんなおもしろい話をして、祖母もずっと笑顔でこたえてくれました。病院の治療のおかげで祖母は元気な時間が増え、一緒に外出することができるようにもありました。そんなあるとき祖母が、

「おばあちゃんはおあなたのおばあちゃんになれて本当に嬉しいんだよ。」

と言ってくれたのを覚えています。私が祖母にもらった言葉は数多くありますが、このときほど泣きたくなかったことはありませんでした。

幾月か過ぎて、祖母は息を引き取りました。それは私たちに見守られながらもとても安らかに眠るようでした。大好きなおばあちゃんがいなくなることはとても悲しいものですが、かわりにとても大きな思い出を残してくれました。

祖母は倒れる前から保険に入っていたという話を聞きました。保険について私は全く知らなかったのですが、祖母の高額な入院費、医療費の負担を減らし、もし亡くなったときは生きている人の生活資金を渡してくれるものだと聞いて、その重要さに驚きました。生命保険は、私や母など家族の生活を支え、

## 第54回中学生作文コンクール

給付金のおかげで祖母はより長く私たちとの思い出を作る時間を増やせたのだと感じました。さらに、生命保険は祖母が亡くなった後も私たちの生活を支える大切なものを与えてくれて、祖母は私たちにとだけ多くのもを授けてくれたのだらうと感動しました。

私も将来大切な家族ができて、娘や孫が生まれ、おばあちゃんとなっていくでしょう。そうしたら、たくさん笑って、叱って、思い出を残してあげられるようになりたいです。私の祖母には及ばないかもしれませんが、家族思いの、家族に何かを残せる立派な人になりたいです。そのためにも、祖母のように生命保険に入っておくことは大切だと思います。そして、大切な娘、孫、その家族や家計が少しでも助かって、私との思い出がたくさん残せるようになったらいいなと思いました。